

● CNC P はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」 第 19 回 国語辞典の「土木」の「土と木」

『大辞林第四版』（2019年9月）の「土木」の第一語義は「①土と木。また、飾り気のないことのため。→形骸（けいがい）を土木にす（「形骸」の句項目）。」である。『大辞林第三版』（2006年10月）に中国の故事・成語の「土木形骸」の説明が追加された。参照先の「【形骸】」の句項目は「形骸を土木（どぼく）にす〔晋書嵇康伝〕身なりを全く飾らない。」となっている。

「土木形骸」は、竹林の七賢人の容姿を形容した『世説新語・容止』（5世紀頃）「劉伶身長六尺、貌甚醜悴、而悠悠忽忽、土木形骸」（「悠悠忽忽」は何もせずのんびりすること）と『晋書・嵇康傳』（648年頃）「身長七尺八寸、美詞氣、有風儀、而土木形骸、不自藻飾」にあり、晋の劉伶と魏の嵇康のように「自然の土や木のように、飾らずありのままの姿でいること」の意味である。

このほか、白居易が官吏を退いて草堂にて詠んだ『白氏文集・重題』（817年）「豈止形骸同土木、兼將壽夭任乾坤。」は「我が身を土や木と同じくして、飾ることをしないでだけでなく、我が寿命をも自然にまかせたい。」である。

日本では、正岡子規の『筆まかせ』（1884～92年）に「陰学士は陽学士を評して『俗だ』とか『名利の為に形骸を土木にするのだ』とか『天下無頼の徒』とか『法螺ふき学問』だとかいひはやして」とあり、竹林の七賢人の逸話が背景にあるものと察せられる。

なお、「土と木。」については、字義のとおり、「土」と「木」のことと解釈するべきであるが、現代の具体的な用例が見当たらないのが残念である。

（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.67 コンテンツ

巻頭言	『世のため人のため』	山崎 晶	2
コラム	台風 19 号災害の被災地・水戸の現場から	三上 靖彦	3
トピックス	講演会報告「シビルエンジニアリングに求めるもの」	田中 努	5
土木と市民社会をつなぐ	市民の信頼を得るには、理念・哲学の構築と生活感が重要！	齋藤 宏保	7
部門活動紹介	土木と市民社会をつなぐ活動	土木学会連携部門	9
サポーターからの投稿	夏のリコチャレ2019を開催	田嶋 千文	11
事務局通信			13